

子どもの主体的な学びを実現します

(目指す子どもの姿) 一人一人が問い合わせをもち、かかわりを通して学びを深めている

子どもの問い合わせが生きる「考える授業づくり」

【学びの過程】

事象にあう



問い合わせをもつ・見通しを立てる

問い合わせを共有し、学習の見通しをもつ

「どういうこと?」「どうして?」「どうすればいいの?」

自分で考える

既存の知識や経験を想起し、活用する

かかわりを通して考えを広げ、深める

調べて情報を収集する

他者の考えにあい、多様な視点で話し合う

【考え方を広げ、深めるための話合いの例】

比較	複数の考え方について、共通点や相違点を明らかにする。
分類	複数の考え方について、共通点のあるものをまとめる。
関連付け	複数の考え方について、どのような関係にあるかを見付ける。
選択	複数の考え方から、目的や視点に応じてより妥当な考え方を選ぶ。
合成	複数の考え方を組み合わせ、新しい考え方をもつ。
強化	考え方の理由や原因、根拠を加え、考え方をより確かなものにする。
創造	異なる視点や観点により、新たな考え方をつくる。

自分で考えを再構成する

自分の考え方を吟味し、再構成する

自分でまとめる(課題・めあてに対する自分のまとめ)

自己の学びを振り返る

自分の学びの過程の自覚する

次時への方向性をもつ

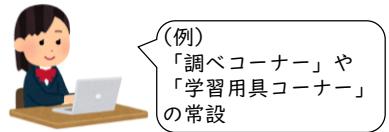


「考える授業づくり」を進める上で大切な

特別支援教育の視点を取り入れた工夫例

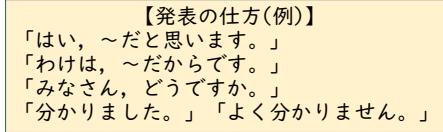
【場の構造化】

- 物の配置などを固定化して整理整頓し、教室内を機能化する。
→自分で準備等が行いやすくなる。
- 刺激を調整することにつながる。



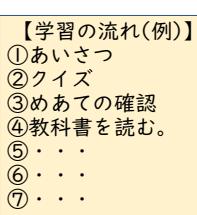
【学習ルールの設定】

- 発表の仕方などの学習ルールを子どもたちと共につくる。
→発言しやすい。
→安心して活動できる。



【時間の構造化】

- 単元や授業の流れなどを示す。
→見通しをもって活動できる。



【学習内容の視覚提示】

- 学習内容に関連した興味・関心のあるものや意外性のあるものなどを視覚化する。
→意欲がわきやすい。
→児童生徒による様々な発見につながる。



【モデルやヒントの提示】

- モデルやヒントを視覚化する。
→やり方など、解決のイメージがもちやすくなる。



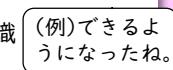
【動作化】

- 身体を使って表現することを促す。
→相手の気持ちや状況が理解しやすくなる。
→イメージをもつことができ、実感しやすくなる。



【肯定的な評価】

- 【導入】取り組もうとしていることを肯定的に評価する。
- 【展開】取り組んでいることのよさをその場で評価する。
→意欲が高まり、持続しやすくなる。
- 【終末】自己評価・他者評価・相互評価などをする。
→できたことや課題を認識しやすくなる。



【学習形態の工夫】

- ペアやグループによる話し合い活動を設定する。
→積極的に意見を述べやすい。
→思考を整理することができる。
→学習を深めることができる。



「考える授業づくり」の基盤となる

生徒指導の実践上の視点

【自己存在感の感受】

- 「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感を、児童生徒が実感することが大切
- 自己肯定感や自己有用感を育むことも極めて重要



【共感的な人間関係の育成】

- 支持的で創造的な学級・ホームルームづくりが生徒指導の土台
 - 失敗を恐れない
 - 間違いやできないことを笑わない。むしろ、なぜそう思ったのか、どうすればできるようになるのかを皆で考える

【自己決定の場の提供】

- 自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、制作する等の体験が何よりも重要
 - 授業場面で自らの意見を述べる
 - 観察・実験・調べ学習等を通じて自己の仮説を検証してレポートする等

【安全・安心な風土の醸成】

- お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活が送れるような風土を、教職員の支援の下で、児童生徒自らがつくり上げるようにすることが大切

※ 生徒指導の目的を達成するためには、児童生徒一人一人が自己指導能力を身に付けることが重要
※ 自己指導能力：児童生徒が、深い自己理解に基づき、「何をしたいのか」、「何をするべきか」、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力